

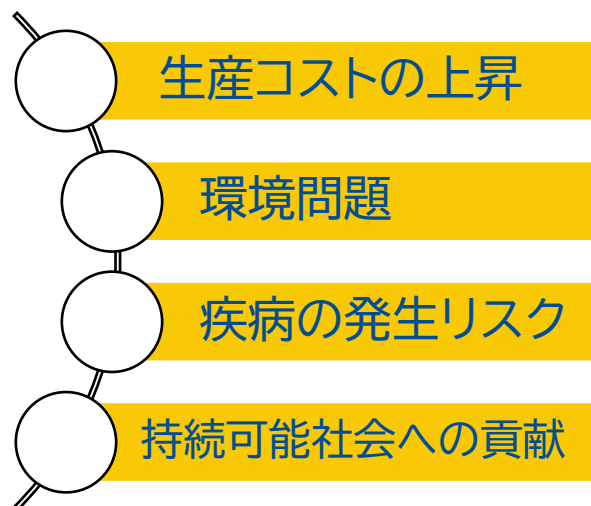
養豚農業の振興に関する基本方針

(令和7年4月策定)

養豚農業の意義

- 豚肉は手頃な価格で購入できる良質なタンパク質として国民生活に不可欠
- 多くの関連産業と結びつき、地域経済の発展と雇用の維持に貢献

現状・課題



- ✓ 飼料費の高止まり
- ✓ 設備投資・獣医療費の増加
- ✓ 労働時間の増加と人手不足
- ✓ 臭気問題、悪臭防止法への対応
- ✓ 水質汚濁防止法への対応
- ✓ 豚熱への対応
- ✓ アフリカ豚熱の侵入リスクの高まり
- ✓ その他慢性疾病による生産性低下
- ✓ 環境負荷低減への取組
- ✓ アニマルウェルフェアへの対応
- ✓ 薬剤耐性菌への対応

基本的な対応方向

生産コストの低減

- 効率的な生産システムの導入
- 各種経営診断の活用
- 優良種豚の活用
- スマート農業技術の活用

ブランド化

- 特色ある銘柄豚の生産
- 国産飼料の利用、環境への配慮による高付加価値化

排せつ物処理の高度化

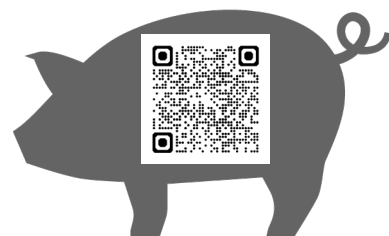
- 脱臭装置や排水処理技術の導入
- 家畜排せつ物の有効活用(堆肥化)
- 温室効果ガス削減技術の普及

疾病対策

- 飼養衛生管理・バイオセキュリティの徹底
- 水際対策の強化
- 獣医療提供体制の整備

持続可能な産業

- アニマルウェルフェアの理解醸成
- 飼養衛生管理の向上・抗菌薬の慎重使用
- 物流への対応



(本文はこちら)



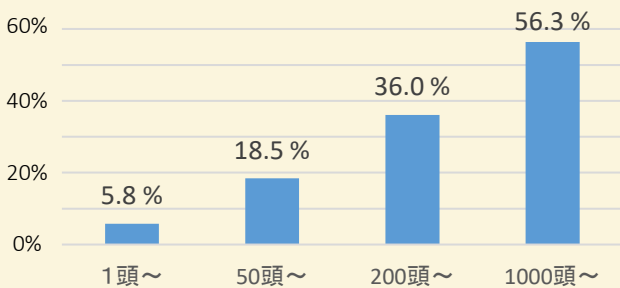
基本方針のポイント



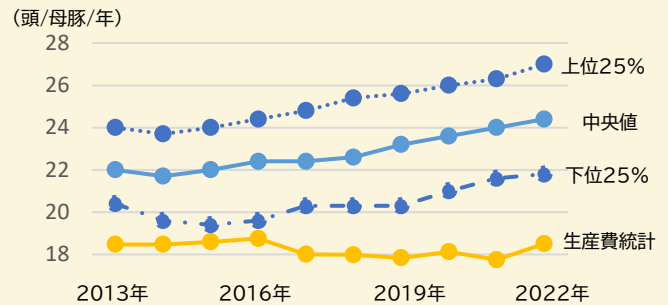
● 経営分析の活用

- ◆ 自農場の成績、経営などを継続して記録し、社内比較を行うとともに、他社の優れた事例を指標として比較・分析し、改善すべき点を見出す「ベンチマーキング」の取組を推進。
- ◆ ベンチマーキングによる経営診断の導入により、1母豚当たりの出荷頭数や飼料要求率等を改善し、経営管理能力の向上を図る。

ベンチマーク加入率(母豚頭数ベース)



ベンチマーク加入者の1母豚当たり年間出荷頭数



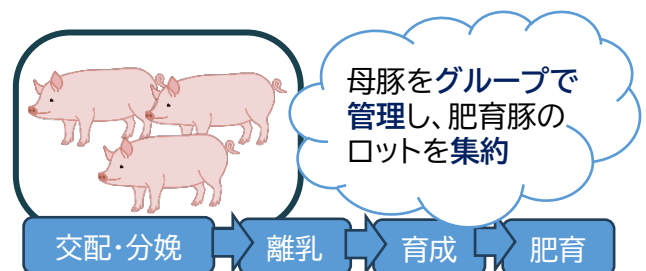
● 飼養衛生管理の高度化

- ◆ グループ生産システムを取り入れた効果的なオールイン・オールアウト方式や、マルチサイト方式の導入を図る。
- ◆ 衛生管理の更なる強化により、疾病の発生リスクを低減することで事故率低減や生産性向上を図ることが可能。

グループ生産システム

母豚を複数のグループに分け、一定の間隔で交配・分娩・離乳を行う管理手法。

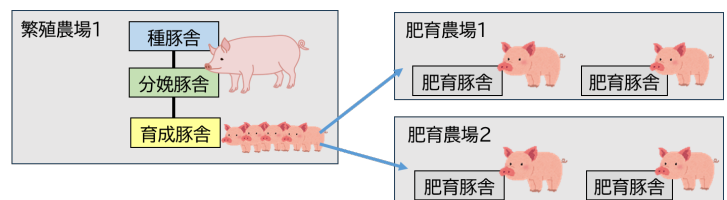
- ・中小規模農家でもオールイン・オールアウト方式がとりやすい。
- ・疾病の制御による生産成績向上が期待。
- ・従事者の休日確保にも有効。



マルチサイト方式

農場を分散させることで、豚の成長過程に適合した飼養衛生管理を可能とする手法。

- ・疾病の制御による生産成績向上、疾病発生時の経営への影響緩和が期待。





基本方針のポイント



スマート農業技術の活用

- ◆ 母豚群飼システムや体重推定機器、豚舎洗浄ロボット等の機械装置の導入により、生産性の向上と省力化を推進。

母豚管理の省力化



母豚群飼システム

肉豚出荷適期の把握



体重推定機器

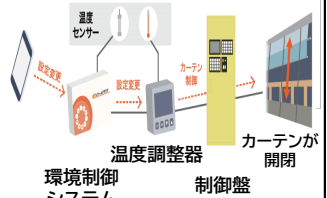
豚舎洗浄の省力化



洗浄ロボット

自動環境制御

温度調整器・制御盤と連携したカーテンの遠隔制御



ブランド化等による販売力の強化

- ◆ 特定の品種や、米、食品残さ、子実用とうもろこしなどの**国内由来飼料**を利用。
- ◆ 肉質・食味の改良、循環型社会への貢献等、訴求力の高い豚肉を生産し、販売力を強化。



家畜排せつ物の有効活用

- ◆ 養豚由来の排せつ物は、年間約2,000万t。
- ◆ 国内肥料資源の更なる有効活用に向け、**堆肥の高品質化**や利便性・輸送性の高い**ペレット化**などによる耕畜連携が重要。



豚ふんペレット堆肥

物流への対応

- ◆ **生体の輸送距離短縮**のための産地処理、**アニマルウェルフェアに配慮した輸送**を推進。
- ◆ 突発的な発注・配送の削減等、**飼料輸送の合理化**につなげる取組を推進。





基本方針のポイント



● 疾病の予防と影響緩和

- ◆ **飼養衛生管理基準の遵守徹底**、野生動物対策、水際対策等により家畜伝染病の発生やまん延を防止。
- ◆ 疾病発生時の影響緩和を図るため、人・物・家畜等の動線を分けることで殺処分の範囲を限定する**農場分割**の取組を推進。
- ◆ 豚熱について、今後、関係者が連携し清浄化に向けた道筋を示す。
- ◆ 産業動物獣医師の確保・育成、遠隔診療の導入等、獣医療提供体制の整備を推進。

農場内や車両の消毒



野生動物対策



水際対策



● アニマルウェルフェアの理解醸成

- ◆ 豚を快適な環境で飼養し、豚の健康を維持することは能力の最大限の発揮による生産性向上にも結びつく。
- ◆ 国際基準に基づく「**豚の飼養管理に関する技術的な指針**」の現場への普及・定着を図る。

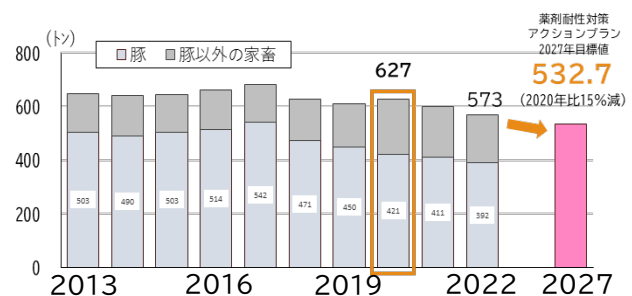


母豚を群で管理

● 薬剤耐性への対応

- ◆ 高度な衛生管理技術の導入や、ワクチン接種による感染症予防により抗菌薬の使用量は着実に減少。
- ◆ 引き続き**飼養衛生管理の向上**及び**抗菌薬の慎重使用**に向けた取組を推進。

● 畜産分野全体の動物用抗菌薬販売量(ト)の動き



資料：農林水産省「動物用医薬品販売高年報」